

4 徳島県立文学書道館【24,980千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【1,670千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第19回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(木)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:令和4年2月11日(金・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【330千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」18号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	330,000
	小計		330,000

(3) 教育普及育成事業【4,196千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 大高翔の俳句教室	<p>若い世代を対象とした俳句の実作講座。高校卒業時に第1句集を出版して話題を呼んだ阿南市出身の俳人・大高翔さんを講師に迎え、句会を通して作句の基本を実践的に学ぶ。</p> <p>日時:5月～9月(全5回) 会場:講座室</p>	600,000
2	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな生き方について考える。</p> <p>日時:6月～9月(全4回) 会場:講座室</p>	556,000
3	文学講座 朗読劇「夏の雲は忘れない」	<p>原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」を12人の出演者で上演する。開館以来おこなってきた「反戦」の朗読会を発展させたもの。「反戦・平和」の思いを継続して伝え、朗読愛好者に研鑽の機会を設ける。</p> <p>日時:6月13日(日) 会場:ギャラリー</p>	192,000
4	第20回言の葉朗読会	<p>朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。</p> <p>日時:9月23日(木・祝) 会場:ギャラリー</p>	10,000
5	文学講座 短歌を作ろう	<p>「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。また参加者がお互いの作品について感想を述べ合い、歌境を深める。</p> <p>日時:10月～3月(全6回) 会場:講座室</p>	180,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
6	文学講座 秋の文学講演会	第一線で活躍している作家、詩人、歌人、俳人などを招いて、これまでの歩み、自作について、創作の方法などのテーマで話してもらい、文学と芸術、世界と人間の在り方について理解を深める。 日時:10月～11月(全2回) 会場:ギャラリー	500,000
7	文学講座 古典を読む「土佐日記」	阿波も描かれる『土佐日記』から、都会と田舎の人の違い、土佐で亡くなった娘などの主題を取り上げ、深く読み込んでいく。 日時:11月～2月(全4回) 会場:講座室	110,000
8	書道講座 インテリアの書を創作しよう	古典的な芸術作品としての書ではなく、現代的で気軽に部屋に飾ることができる書を制作する。書を身近に感じてもらい、書に親しんでもらう。 日時:10月9日、23日(全2回) 会場:実習室	59,000
9	書道講座 一流書家による席上揮毫	書道界の第一線で活躍している書家を招き、席上揮毫のほか、揮毫作品の制作意図や技術的なこと、書に対する自身の考え、書道道具へのこだわりなどを語ってもらう。なお、講座修了後にロビーで揮毫作品展を開催する。 日時:未定 会場:実習室	276,000
10	書道講座 書の鑑賞	書の鑑賞については、「文字が読めないから難しい」「芸術的な作品の良さが分からない」などの声が聞かれる。本講座では、著名な書の専門家を講師に招き、幅広い年代の人にわかりやすく書の見方を解説し、書の魅力を知ってもらう。 日時:未定 会場:ギャラリー	132,000
11	書道講座 書道講演会	書の専門家、評論家、美術館学芸員、書や筆・墨・硯・紙に関する本の著者、話題の人などを講師に招き、講演会を開催する。 日時:10月24日(日) 会場:ギャラリー	132,000
12	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、好きな漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時:1月10日(月・祝) 会場:講座室・実習室	49,000
13	ここのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的とする。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性も生み出す。 日時:5月～3月(全6回) 会場:1階ロビー	1,400,000
	小計		4,196,000

(4) 展示事業【18,784千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。 年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	
5	文学特別展 寂聴の愛する古典の女たち (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は、学生時代から古典に親しみ、多くの現代語訳や小説化した作品、古典に関する随筆がある。今回は「私の好きな古典の女たち」の著書から10人の女性を取り上げる。また、51歳で出家し、建立した「寂庵」の庭の変遷とゆかりの人々を写真と文章で紹介する「寂庵の庭とゆかりの人々」を併催。 期間:4月10日(土)～5月23日(日) 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,502,000
6	書道特別展 没後30年 小坂奇石と現代書道 二十人展 (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点を収蔵しており、毎年テーマを変えてそれらの中から選りすぐりの作品を紹介している。今回のテーマ「現代書道二十人展」は、日本を代表する20人の書家が新春に新作を発表する展覧会で、奇石は36年間にわたり同展のメンバーに選ばれ作品を発表した。没後30年にあたり、奇石が特に心血を注いだ同展の出品作を展示し、作風の変遷をたどるとともに各作品の魅力を紹介する。 期間:6月18日(金)～8月9日(月・振休) 46日間 会場:特別展示室・ギャラリー	1,529,000
7	文学特別展 新居格展 (特別展示事業)	板野郡大津村(現・鳴門市大津町)に生まれた新居格(1888～1951年)は、パール・バック「大地」を翻訳し、翻訳家・評論家として活躍した。モダニズム文学や当時の風俗に造詣が深く、1920年代に流行したモボ・モガという言葉を作ったと言われる新居の業績や人となりを資料とともに紹介する。 期間:8月12日(木)～9月20日(月・祝) 35日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,683,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
8	書道特別展 文字の美—柳宗悦がみつめたもの (特別展示事業)	民衆の暮らしの中で使われていたものに美を見だし、「民藝」と名付けて、その価値を広めた思想家・柳宗悦(1889～1961年)。柳の審美眼は書にも向けられ、独自の書論によって、個人を超えて模様化された書を「工芸的な文字」と呼び、その美しさを称賛した。柳が収集し、日本民藝館が所蔵する拓本や、文字が施された絵画、陶磁器、木工品、染織品などを展示し、芸術書道とは異なる文字の美しさを紹介する。 期間:10月2日(土)～11月14日(日) 38日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	5,756,000
9	文学特別展 中原中也～無垢の悲しみ (特別展示事業)	人間の悲しみや寂しさを、無垢な詩心と少年のようなまなざしで映し出した詩人・中原中也(1907～1937年)。「帰郷」「汚れちまつた悲しみに…」など深い叙情と澄み切った感性の結晶した詩は、多くの人の心を慰めてきた。近代を代表する詩人の一人で、今なお愛され続ける中也の直筆原稿や日記、遺愛品などを展示し、詩人の歩みと作品世界を紹介する。 期間:12月11日(土)～2月12日(土) 48日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,737,000
10	書道特別展 江口大象展 (特別展示事業)	2020年9月に急逝した書家・江口大象(1935～2020年)は、小坂奇石に師事したが、若くして師風から離れ、独自の書を追求した。日展や現代書道二十人展などで作品を発表し、日本の書道界の第一線で活躍したほか、奇石が創設した書道研究結社「璞社」の会長を引き継ぎ、自身の作品制作とともに多くの門人を育てた。これまでの寄贈品や個人所蔵の作品を展示し、大らかで明快な魅力あふれる作品と生涯の歩みを紹介する。 期間:2月17日(木)～3月21日(月・祝) 29日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,310,000
11	書道企画展 中林梧竹と海老塚的伝—親交から生まれた書 (企画展示事業)	中林梧竹は近代書道史に名を連ね、明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、梧竹の支援者であった海老塚的伝氏より寄贈された傑作を中心に約300点を収蔵しており、毎年テーマを変えて梧竹の作品を紹介している。今回は梧竹と的伝の関わりの中で制作された作品や、二人にとってゆかりのない徳島に作品が寄贈された経緯などを紹介する。 期間:6月15日(火)～9月26日(日) 90日間 会場:書道美術常設展示室	183,000
12	文学企画展 漢字のなりたち、そのてまえのかたち ～金子都美絵 白川静文字学を描く～ (企画展示事業)	東京都で生まれ、徳島県で育った画家の金子都美絵(1963年～)は、白川静の文字学を画本にした『<白川静の絵本>サイのものがたり』など多くの著作がある。本展では漢字の成り立ちを独創的に解き明かした白川静の文字学と、それを繊細な絵として表現した金子都美絵の作品世界を紹介する。 期間:8月12日(木)～9月20日(月・祝) 35日間 会場:ギャラリー	800,000
13	文学企画展 生誕150年 徳島文壇の開拓者 井上羽城 (企画展示事業)	福井県出身の井上羽城(1871～1947年)は、26歳の時、徳島新報(現・徳島新聞)の記者として東京から赴任し、徳島文壇のリーダーとして活躍した。生誕150年にあたり、羽城の直筆原稿や交流のあった落合直文、与謝野寛からの書簡などを展示し、徳島の文化・文学の向上に生涯をささげた羽城の業績を紹介する。 期間:11月3日(水・祝)～1月16日(日) 58日間 会場:文学常設展示室	470,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
14	書道企画展 第6回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点以内)と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者90人を表彰する。 期間:11月27日(土)~12月5日(日) 8日間 会場:ギャラリー	814,000
	小計		18,784,000
	合計		24,980,000